

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**コタ株式会社(仮称)研究棟新築計画**

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.0)

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>3.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.40</b>			<b>3.7</b>
<b>1 音環境</b>						<b>3.6</b>	0.15			<b>3.6</b>
1.1 室内騒音レベル		-				3.0	0.40			
1.2 遮音		-				4.2	0.40			
1.2.1 開口部遮音性能		補足資料1.2.1開口部の遮音性参照				5.0	0.60			
1.2.2 1 界壁遮音性能		-				3.0	0.40			
1.2.2 2 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-								
1.2.2 3 界床遮音性能(重量衝撃源)		-								
1.3 吸音		応接室1、2の仕上げ天井:岩綿吸音版、床:タイルカーペット				4.0	0.20			
<b>2 温熱環境</b>						<b>3.7</b>	0.35			<b>3.7</b>
2.1 室温制御		-				3.0	0.63			
2.1.1 1 室温		-				3.0	0.38			
2.1.1 2 外皮性能		記入例:エアフローウィンドウの採用				3.0	0.25			
2.1.1 3 ゾーン別制御性		-				3.0	0.38			
2.2 湿度制御		-				-	-			
2.3 空調方式		空調吹出口の面積を大きくし気流速度を低減				5.0	0.38			
<b>3 光・視環境</b>						<b>3.1</b>	0.25			<b>3.1</b>
3.1 昼光利用		-				3.0	0.30			
3.1.1 1 昼光率		-				3.0	0.60			
3.1.1 2 方位別開口		-								
3.1.1 3 昼光利用設備		-				3.0	0.40			
3.2 グレア対策		-				3.0	0.30			
3.2.1 1 昼光制御		-				3.0	1.00			
3.3 照度		全般照明方式で十分な照度を確保				4.0	0.15			
3.4 照明制御		-				3.0	0.25			
<b>4 空気環境</b>						<b>4.4</b>	0.25			<b>4.4</b>
4.1 発生源対策		-				5.0	0.50			
4.1.1 1 化学汚染物質		ほぼ全ての建材にF☆☆☆☆及び規制対象外を使用				5.0	1.00			
4.2 換気		-				4.3	0.30			
4.2.1 1 換気量		シックハウス対応を満たす換気量の1.4倍以上を確保				5.0	0.33			
4.2.1 2 自然換気性能		-				3.0	0.33			
4.2.1 3 取り入れ外気への配慮		補足資料4.2.3取り入れ外気への配慮参照				5.0	0.33			
4.3 運用管理		-				3.0	0.20			
4.3.1 1 CO <sub>2</sub> の監視		-				1.0	0.50			
4.3.1 2 喫煙の制御		喫煙場所を3F西側バルコニーに設置し非喫煙者が煙に曝されない計				5.0	0.50			
<b>Q2 サービス性能</b>							<b>0.30</b>			<b>3.8</b>
<b>1 機能性</b>						<b>4.3</b>	<b>0.40</b>			<b>4.3</b>
1.1 機能性・使いやすさ		-				3.6	0.40			
1.1.1 1 広さ・収納性		働き方の多様化に伴い4Fカフェテリアでも執務が可能な計画				5.0	0.33			
1.1.1 2 高度情報通信設備対応		-				3.0	0.33			
1.1.1 3 バリアフリー計画		-				3.0	0.33			
1.2 心理性・快適性		-				5.0	0.30			
1.2.1 1 広さ感・景観		ほぼ全ての階で2.9m以上の階高を確保				5.0	0.33			
1.2.1 2 リフレッシュスペース		4Fカフェテリアをリフレッシュスペースとしても兼用				5.0	0.33			
1.2.1 3 内装計画		コンセプトに合わせた内装とするため、内観パース等で検証				5.0	0.33			
1.3 維持管理		-				4.5	0.30			
1.3.1 1 維持管理に配慮した設計		No.12 設備バルコニー等を設置し、機器のメンテナンスに配慮				5.0	0.50			
1.3.1 2 維持管理用機能の確保		埃溜りに配慮し、床材を壁まで巻き上げる計画等				4.0	0.50			
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.3</b>	0.30			<b>3.3</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		-				3.0	0.50			
2.1.1 1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-				3.0	0.80			
2.1.1 2 免震・制震・制振性能		-				3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数		-				3.8	0.30			
2.2.1 1 躯体材料の耐用年数		-				3.0	0.20			
2.2.1 2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-				5.0	0.20			
2.2.1 3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-				3.0	0.10			
2.2.1 4 空調換気ダクトの更新必要間隔		実験に関わるダクトは劣化が早い為塩ビライニング鋼板ダクトを採				5.0	0.10			
2.2.1 5 空調・給排水配管の更新必要間隔		補足資料2.2.5空調・給排水配管の更新必要間隔参照				5.0	0.20			
2.2.1 6 主要設備機器の更新必要間隔		-				2.0	0.20			
2.4 信頼性		-				3.6	0.20			
2.4.1 1 空調・換気設備		熱源をエリアごとに分け建物の機能を維持できる計画				4.0	0.20			
2.4.1 2 給排水・衛生設備		井水等の自然エネルギーは積極的に利用する				4.0	0.20			
2.4.1 3 電気設備		-				3.0	0.20			
2.4.1 4 機械・配管支持方法		-				3.0	0.20			
2.4.1 5 通信・情報設備		浸水等に配慮した計画				4.0	0.20			

3	対応性・更新性		3.6	0.30		-	3.6
	3.1 空間のゆとり		4.2	0.30		-	
	1 階高のゆとり	ほぼ全ての階で階高3.9m以上を確保	5.0	0.60		-	
	2 空間の形状・自由さ	-	3.0	0.40		-	
	3.2 荷重のゆとり	-	3.0	0.30		-	
	3.3 設備の更新性		3.6	0.40		-	
	1 空調配管の更新性	600角の点検口を設け構造、仕上げを痛めることなく更新・修繕が可能	4.0	0.20		-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20		-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10		-	
	4 通信配線の更新性	通信配線は空配管とし、構造、仕上げを痛めることなく更新・修繕可	5.0	0.10		-	
	5 設備機器の更新性	外調機は各エリアで分散させ修繕の際に建物機能を維持	4.0	0.20		-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20		-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.30		-	4.2
1	生物環境の保全と創出	前面道路に面して緑地帯を設け地域住民が自然に親しめる計画	4.0	0.30		-	4.0
2	まちなみ・景観への配慮	前面道路に対して建屋一部をセットバックさせ街並みに調和させる	5.0	0.40		-	5.0
3	地域性・アメニティへの配慮		3.5	0.30		-	3.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	設計段階で施設利用者にアンケートを実施	3.0	0.50		-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	可能な限り緑化に努め、敷地内の温熱環境の向上を図る	4.0	0.50		-	
LR	建築物の環境負荷低減性						3.4
LR1	エネルギー		-	0.40		-	3.5
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPIm=0.73	5.0	0.20		-	5.0
2	自然エネルギー利用	-	3.0	0.10		-	3.0
3	設備システムの高効率化	-	3.3	0.50		-	3.3
4	効率的運用		3.0	0.20		-	3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00		-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	0.50		-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	0.50		-	
	集合住宅の評価						
	4.1 モニタリング	-					
	4.2 運用管理体制	-					
LR2	資源・マテリアル		-	0.30		-	3.5
1	水資源保護		3.4	0.20		-	3.4
	1.1 節水	トイレやキッチン水栓などに節水、省水型を採用	4.0	0.40		-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60		-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70		-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30		-	
2	非再生性資源の使用量削減		3.6	0.60		-	3.6
	2.1 材料使用量の削減	-	3.0	0.10		-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20		-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20		-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	外壁:窯業系サイディング、天井:岩綿吸音板、床:長尺塩ビシート	5.0	0.20		-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	3.0	0.10		-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	事務室にOAフロアを採用	4.0	0.20		-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.6	0.20		-	3.6
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	エポキシ樹脂系塗床、錆び止めペイント1種	5.0	0.30		-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70		-	
	1 消火剤	-	-	-		-	
	2 発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50		-	
	3 冷媒	-	3.0	0.50		-	
LR3	敷地外環境		-	0.30		-	3.3
1	地球温暖化への配慮		3.6	0.33		-	3.6
2	地域環境への配慮		3.3	0.33		-	3.3
	2.1 大気汚染防止	エネルギー効率90%のボイラーを採用	4.0	0.25		-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50		-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25		-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25		-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25		-	
	3 交通負荷抑制	雨に濡れない駐輪スペースを確保	5.0	0.25		-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25		-	
3	周辺環境への配慮		3.0	0.33		-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
	1 騒音	-	3.0	1.00		-	
	2 振動	-	-	-		-	
	3 悪臭	-	-	-		-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40		-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70		-	
	2 砂塵の抑制	-					
	3 日照障害の抑制	-	3.0	0.30		-	
	3.3 光害の抑制		3.3	0.20		-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	3.0	0.70		-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	建物西面にFRPグレーチングを設置し、ガラス等の反射を低減	4.0	0.30		-	